

実質化された人・農地プラン

市町村名	対象地区名 (地区内集落名)	作成年月日	直近の更新年月日
福島県会津坂下町	金上地区（金上）	令和5年2月24日	

1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	105 h a
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	97 h a
③地区内における75才以上の農業者の耕作面積の合計	26 h a
i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	2 h a
ii うち後継者について不明の農業者の耕作合計面積	— h a
④地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	10 h a
(備考) ※④は、アンケートにおいて「5年後、10年後経営を止め農地を貸し出す」と回答した者の耕作面積	

2 対象地区の課題

【現状】

- 本地区における認定農業者は5名であり、地区内耕地面積の35%を担っている。
- 認定農業者を除く自作農業者においては、今後10年間は自作の意向を示しているが、高齢化や後継者不足・機械設備の更新等を考慮すると、今後地区内の担い手に委託していきたいと考えている農業者が多数である。

【課題】

- 高齢化が進んでおり、5年後10年後どのようにして集落を守っていくか（集落農業の在り方）について早急に検討していく必要がある。
- 現在の担い手が高齢となり離農した際の農地の受け手が不透明である。

【本地区の強み】

- 集落住民同士の繋がりが強く、集落内協力意識も強い。

3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

【目指す集落農業の方向性（将来像）】

水稻を基幹作物として、中心経営体が主体となり集落農業を維持・発展させる。
受託者のみならず、委託者・非農家住民全体の参加による集落ぐるみでの集落農業を展開していく。

【集落農業を担う中心経営体】

認定農業者のみならず、集落内のあらゆる世代の意欲的に農業経営を営もうとする14名を中心経営体に位置付ける。

【課題解決に向けた取組み】

中心経営体を軸として、自作農家の若手においては維持拡大、熟練農業者においては現状を維持しながら中心経営体へ部分委託をしていく等、恒久的に集落完結型の農業経営を継続していく。

【農地集積・集約の方向性】

中間管理機構を活用し、貸与希望者の情報を共有しながら中心経営体への集積を推進する。

【中心経営体の役割】

集落農業の経営継続のために必要となる機械・設備等の計画的更新を実施する。

【農地委託農家の役割】

経験・知識を活かした、中心経営体への作業補助等の労力提供を行う。

【プランの進捗管理等】

集落ぐるみでの集落農業継続を目指すため、区会や保全委員会総会等において集まる機会により、プラン内容や進捗状況等について継続的な話し合いを行う。

4 本地区における中心経営体

属性	農業者 (氏名・名称)	現状		今後の農地の引受けの意向		
		経営作目	経営面積	経営作目	経営面積	農業を営む 範囲
認農		水稻・そば	17.2 ha	水稻・そば	20 ha	金上・坂下・広瀬・若宮・町外
認農		水稻・野菜	7.7 ha	水稻・野菜	9 ha	金上
認農		水稻・花き	6.1 ha	水稻・花き	7 ha	金上
認農		水稻・そば	4.5 ha	水稻・そば	6 ha	金上
認農		水稻・そば・野菜	6.2 ha	水稻・そば・野菜	10 ha	金上
		水稻	1.8 ha	水稻	2 ha	金上
		水稻	3.2 ha	水稻	3.5 ha	金上
		水稻・そば・野菜	1.9 ha	水稻・そば・野菜	2.2 ha	金上
		水稻・そば・野菜	1.3 ha	水稻・そば・野菜	1.5 ha	金上
		水稻・そば・野菜	4.1 ha	水稻・そば・野菜	4.5 ha	金上
		水稻・大豆・果樹	4.6 ha	水稻・大豆・果樹	10 ha	金上
		水稻・そば	0.5 ha	水稻・そば	2 ha	金上
		水稻・そば・野菜	5.2 ha	水稻・そば・野菜	10 ha	金上
		水稻・そば	1.5 ha	水稻・そば	4 ha	金上
		水稻・そば	2.3 ha	水稻・そば	5 ha	金上
		水稻・そば	3.8 ha	水稻・そば	6 ha	金上